

2019 年夏季ボーナスアンケート調査

今夏のボーナス予想支給額は、「下回る」の回答割合が増加

～製造業、非製造業ともに悪化～

2019 年夏季のボーナスについて、予想支給額・使い道などを、官公庁・民間企業等に勤務する給与所得者世帯を対象にアンケート調査を行いました。

【ポイント】

○ボーナス支給額の増減予想（昨年夏比）

全体（官公庁・民間企業等）では、「上回る」が 11.9%、「下回る」が 13.7%となり、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は▲1.8（昨年夏 1.1）と、3 年ぶりにマイナスとなった。民間企業では、製造業、非製造業ともに悪化した（製造業：昨年夏▲3.4→今年夏▲12.5、非製造業：同▲3.5→同▲7.6）。

○ボーナス予想支給額

『40 万円未満』が全体の約 2/3 を占めた。また、『60 万円以上』（「60～80 万円未満」、「80～100 万円未満」、「100 万円以上」の合計）は増加した。

○ボーナスの使い道

首位は「預貯金」と堅実な姿勢が継続している。また、昨年夏と比べ「旅行・レジャー」、「住宅補修・改築」が増加した一方で、「預貯金」の割合が減少した。

○ボーナスを貯蓄する目的

首位は「老後の生活への備え」、続いて「特に目的はないが安心だから」となった。また、昨年夏と比べ「老後の生活への備え」が最も増加した一方で、「教育資金」が最も減少した。

○ボーナスの運用方法

7 割超が「銀行普通預金」を選択し、次いで「銀行定期預金」となった。また、昨年夏と比べ「財形貯蓄」が最も増加した。

【調査要領】

1. 期 間 2019 年 6 月 3 日～6 月 14 日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の給与所得世帯
3. 調査方法 山陰合同銀行本支店等の店頭にてアンケート用紙を配布（配布数：2,480 枚）、返信用封筒により回収
4. 回 答 数 有効回答数 646 枚（回収率 26.0%）
（県別内訳：鳥取県 264 枚、島根県 376 枚、不明 6 枚）

設問 1. 今年の夏のボーナス支給額は昨年の夏に比べてどうなると予想されますか？

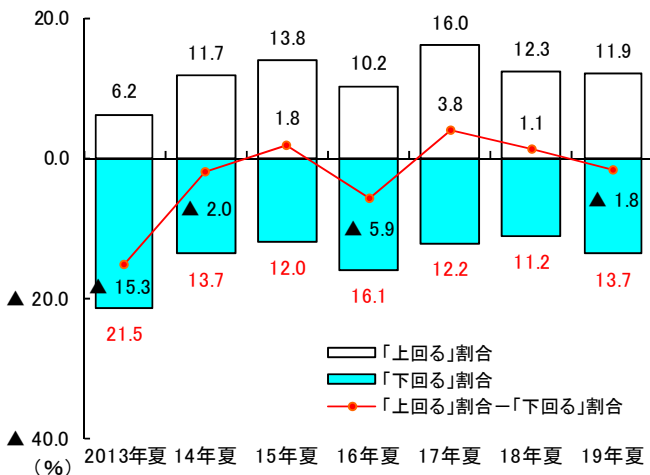
～「下回る」割合が「上回る」割合を超える～

① 全体

今年の夏のボーナス支給額について、昨年夏と比較して「上回る」と予想する世帯割合*は、全体で11.9%（昨年夏比0.4ポイント減）、「下回る」は13.7%（同2.5ポイント増）、「同じくらい」は74.4%（同2.1ポイント減）となりました。

「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値は▲1.8と3年ぶりにマイナスとなりました（昨年夏比では2.9ポイント悪化）。

図示していませんが、県別にみると、鳥取県は1.3（同1.7ポイント改善）、島根県は▲4.1（同6.5ポイント悪化）となりました。

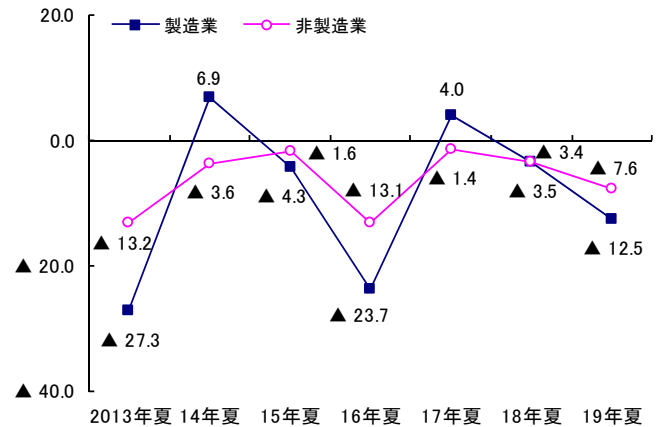


※上記割合は「支給なし」を控除して算出している。

「支給なし」を算入した場合、「支給なし」は全体の10.3%となる（昨年夏9.7%）。

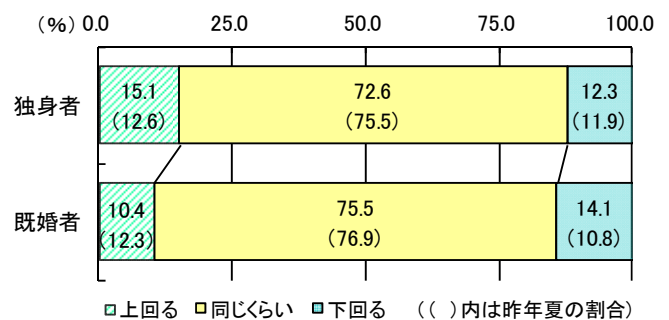
② 製造業・非製造業別

全体のうち民間企業に勤務する世帯（官公庁等を除く）について、製造業・非製造業別に「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値の推移をみると、製造業は2年連続で悪化し（昨年夏▲3.4→今年夏▲12.5）、非製造業も2年連続で悪化しました（同▲3.5→同▲7.6）。



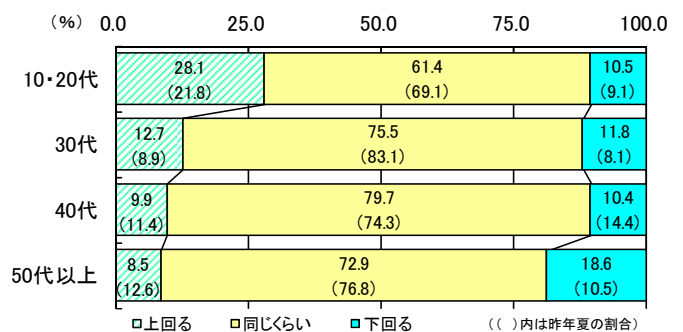
③ 独身者・既婚者別

昨年夏と比べると、「上回る」では独身者で2.5ポイント増加、既婚者は1.9ポイント減少となり、「下回る」では独身者で0.4ポイント増加、既婚者は3.3ポイント増加となりました。



④ 年代別

年代別にみると、「上回る」割合から「下回る」割合を差し引いた値が、40代以下では昨年夏と比べ増加（改善）しました（10・20代：昨年夏12.7→今年夏17.6、30代：昨年夏0.8→今年夏0.9、40代：昨年夏▲3.0→今年夏▲0.5）。また、50代以上では、「上回る」の割合が減少した一方で、「下回る」の割合が増加し、悪化しました。



※四捨五入の関係で合計が100%とならない場合がある、以下同じ。

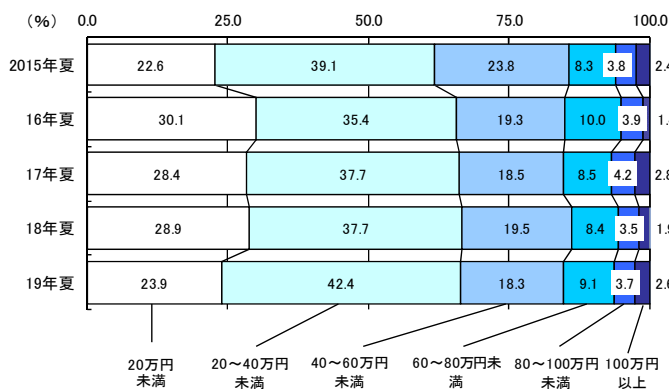
設問2. 今年の夏のボーナス支給額(税込)は、 どのくらいになると予想されますか？

～『40万円未満』が全体の約2/3を占める～

① 全体

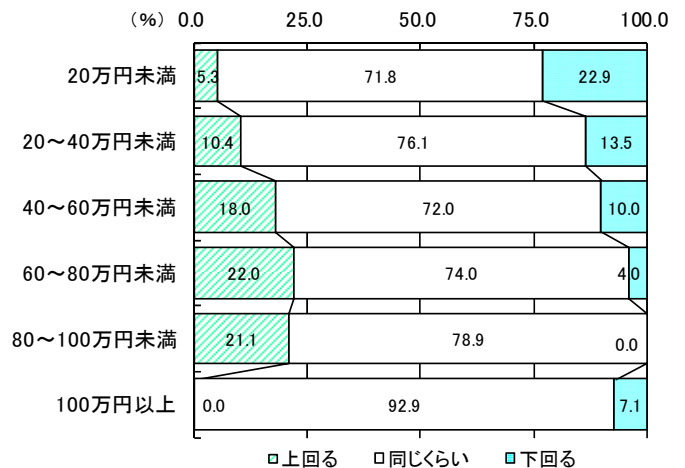
今年の夏のボーナス予想支給額をたずねたところ、最も多いのは「20～40万円未満（42.4%、昨年夏比4.7ポイント増）」となり、以下、「20万円未満（23.9%、同5.0ポイント減）」、「40～60万円未満（18.3%、同1.2ポイント減）」と続きました。『40万円未満』（「20万円未満」、「20～40万円未満」の合計）は全体の約2/3（66.3%）を占めています。

また、『60万円以上』（「60～80万円未満」、「80～100万円未満」、「100万円以上」の合計）についてみると、今年夏は15.4%（同1.6ポイント増）と増加しています。



② 支給額区分別増減予想の割合

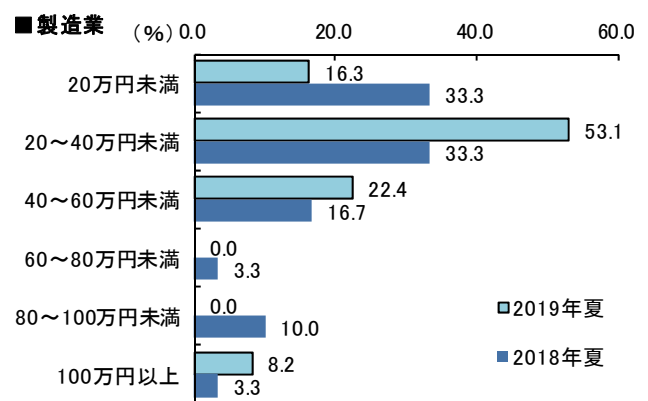
支給額区分別に、増減予想（設問1の回答）の割合をみると、「上回る」割合が最も高い金額区分は、「60～80万円未満（22.0%）」で、次いで「80～100万円未満（21.1%）」となっています。一方、「下回る」割合が最も高い金額区分は「20万円未満（22.9%）」で、以下、「20～40万円未満（13.5%）」、「40～60万円未満（10.0%）」となっています。



③ 製造業・非製造業別

製造業・非製造業別にみると、昨年夏と比べ、製造業では「20～40万円未満（53.1%、昨年夏比19.8ポイント増）」が最も増加し、「20万円未満（16.3%、同17.0ポイント減）」が最も減少しました。

非製造業では、「20～40万円未満（45.9%、昨年夏比7.6ポイント増）」が最も増加し、「20万円未満（29.7%、同6.9ポイント減）」が最も減少しました。



設問3. 今年の夏のボーナスはどのようにお使いになりますか？

～首位は「預貯金」で堅実な姿勢が継続～

① 全体

ボーナスの使い道について合計 100%の配分比率でたずねたところ、上位3項目の順位は「預貯金 (42.9%)」、「生活費補てん (16.8%)」、「借入金返済 (12.0%)」と、例年通りの結果となりました。

昨年夏と比べると、最も増加した項目は「旅行・レジャー (1.8ポイント増)」となり、続いて「住宅補修・改築 (0.7ポイント増)」となりました。一方、最も減少した項目は「預貯金 (2.4ポイント減)」となり、続いて「その他 (0.9ポイント減)」となりました。

② 独身者・既婚者別

独身者・既婚者別にみると、いずれも「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年夏に比べ最も増加した項目は、独身者、既婚者ともに「旅行・レジャー (独身者：11.7%、昨年夏

比 1.8ポイント増、既婚者：8.7%、同 1.8ポイント増)」となり、最も減少した項目は、独身者、既婚者ともに「預貯金(独身者:48.1%、同 4.4ポイント減、既婚者:41.1%、同 1.5ポイント減)」となっています。

③ 年代別

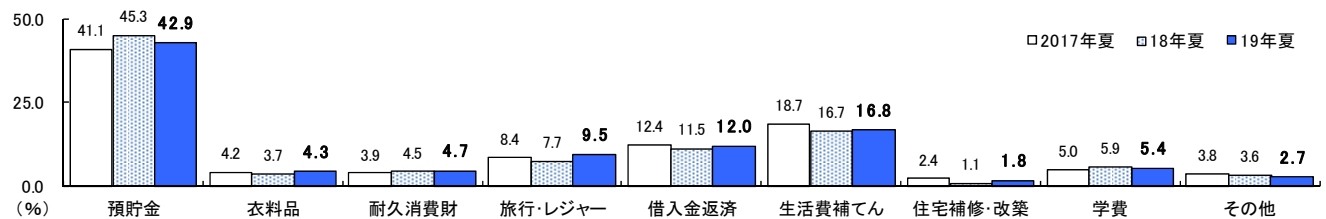
年代別にみると、すべての年代で「預貯金」の回答割合が最も高くなっています。

また、昨年夏に比べ最も増加した項目は、10・20代は「衣料品 (4.5ポイント増)」、30代、40代は「旅行・レジャー(30代:2.3ポイント増、40代:3.0ポイント増)」、50代以上は「借入金返済 (3.1ポイント増)」となりました。一方、最も減少した項目は、10・20代は「その他 (3.4ポイント減)」、30代、50代以上は「預貯金 (30代:3.4ポイント減、50代以上:5.3ポイント減)」、40代は「学費 (2.9ポイント減)」となりました。

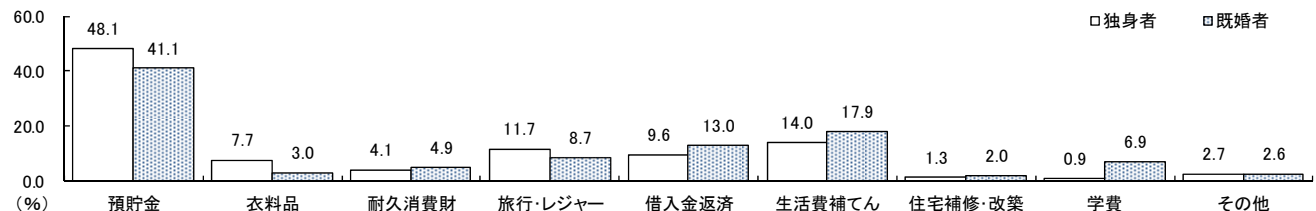
貯蓄志向は依然として根強いものの、40代を中心として、昨年夏に比べ消費 (旅行・レジャー、衣料品など) に対する意欲がやや高まったことがうかがえます。

「その他」の回答として「保険料」、「車検費用」等がありました。

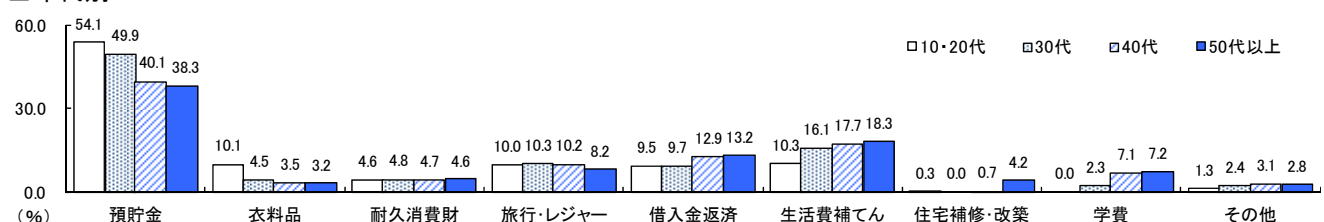
■全体 (3カ年比較)



■独身者・既婚者別



■年代別



設問4. ボーナスを貯蓄（投資）する主な目的は何ですか？（3つまで）

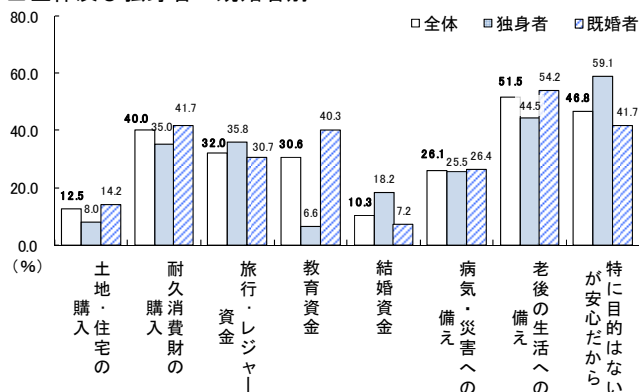
～「老後の生活への備え」が最多、

将来への備えを重視する傾向が続く～

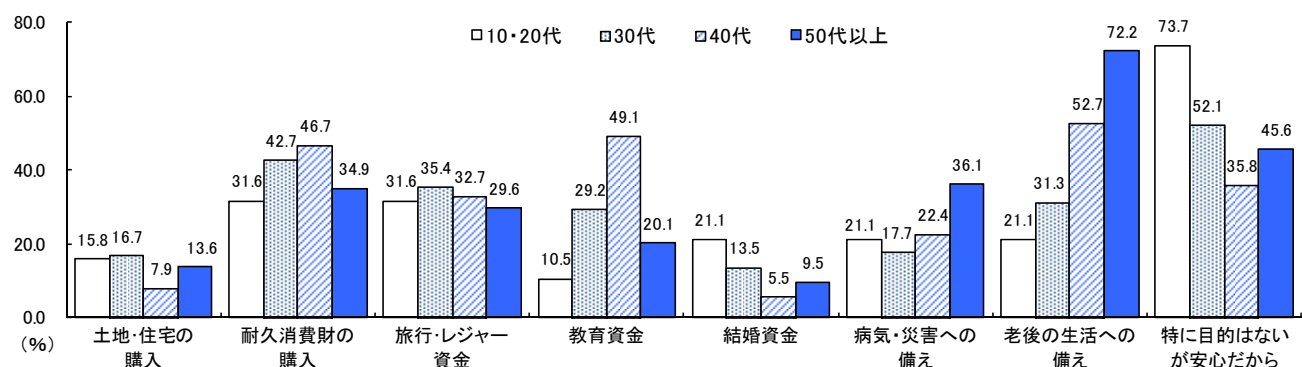
ボーナスを貯蓄（投資）する場合の主な目的（3つまで）をたずねたところ、割合の多い順に「老後の生活への備え（51.5%）」、「特に目的はないが安心だから（46.8%）」、「耐久消費財の購入（40.0%）」、「旅行・レジャー資金（32.0%）」、「教育資金（30.6%）」などとなりました。

上位5項目の昨年夏との比較では、「旅行・レジャー資金」が順位を上げる一方（昨夏5位→今夏4位）、「教育資金」が順位を下げました（昨夏4位→今夏5位）。また、最も増加した項目が「老後の生活への備え（2.7ポイント増）」、最も減少した項目が「教育資金（2.0ポイント減）」となりました。依然として将来への備えを重視する傾向にあることがうかがえます。

■全体及び独身者・既婚者別



■年代別



独身者・既婚者別にみると、最も多かった回答は、独身者が「特に目的はないが安心だから（59.1%）」、既婚者が「老後の生活への備え（54.2%）」となりました。2位以下の項目をみると、独身者では「老後の生活への備え（44.5%）」、「旅行・レジャー資金（35.8%）」の順となっています。一方、既婚者では「耐久消費財の購入（41.7%）」、「特に目的はないが安心だから（〃）」の順となっています。

年代別に最も高い割合をみると、10・20代、30代では「特に目的はないが安心だから（10・20代：73.7%、30代：52.1%）」、40代、50代以上では「老後の生活への備え（40代：52.7%、50代以上：72.2%）」となっています。年代別で最も増加した項目は10・20代では「教育資金（8.6ポイント増）」、30代では「耐久消費財の購入（11.9ポイント増）」、40代では「旅行・レジャー資金（9.1ポイント増）」、50代以上では「土地・住宅の購入（3.8ポイント増）」となりました。

《上位5項目》

（単位：%）

		2018年夏	2019年夏
1位	老後の生活への備え	48.8	51.5
2位	特に目的はないが安心だから	46.9	46.8
3位	耐久消費財の購入	39.3	40.0
4位	教育資金	32.6	旅行・レジャー資金 32.0
5位	旅行・レジャー資金	29.8	教育資金 30.6

設問5. 夏のボーナスを貯蓄（投資）される場合 どんな方法でされますか？（複数回答）

～7割超が「銀行普通預金」を選択、

昨年夏に比べ「財形貯蓄」が最も増加～

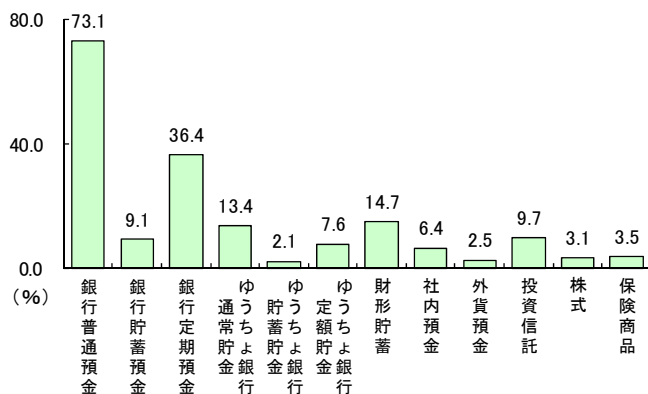
ボーナスの運用方法（複数回答）をたずねたところ、最も多かった回答は「銀行普通預金（73.1%）」であり、以下、「銀行定期預金（36.4%）」、「財形貯蓄（14.7%）」、「ゆうちょ銀行通常貯金（13.4%）」、「投資信託（9.7%）」と続きました。

昨年夏と比べ、「財形貯蓄」が3.6ポイント増と最も増加し、順位も上げました（5位→3位）。

また、「投資信託」以外のリスク性商品については、「保険商品（昨年夏 5.3%→今年夏 3.5%）」、「株式（昨年夏 4.5%→今年夏 3.1%）」、「外貨預金（昨年夏 3.1%→今年夏 2.5%）」のいずれも減少となりました。総じてみると、預貯金への志向は依然として強く、昨年夏に比べリスク性商品で運用すると回答した割合が減少するなど、慎重な傾向がみられます。

予想支給額（金額階層 3 区分*）別にみると、最も回答割合の高い商品は『80 万円以上』は「銀行普通預金」と「銀行定期預金」、『40 万円未満』、『40 万円以上 80 万円未満』は「銀行普通預金」となっています。また、『80 万円以上』では、「財形貯蓄」、「社内預金」が他と比べ高くなっており、堅実な姿勢が続いています。

■全体



(注) 上記以外「その他(1.7%)」、「外国債券(0.6%)」、「貸付・金銭信託(0.4%)」、「公社債(国債等)(0.2%)」

《上位5項目》

(単位: %)

	2018年夏		2019年夏	
1位	銀行普通預金	70.6	銀行普通預金	73.1
2位	銀行定期預金	36.8	銀行定期預金	36.4
3位	ゆうちょ銀行通常貯金	12.5	財形貯蓄	14.7
4位	投資信託	11.5	ゆうちょ銀行通常貯金	13.4
5位	銀行貯蓄預金 財形貯蓄	11.1	投資信託	9.7

■予想支給額別（※金額階層3区分 □40万円未満 ■40～80万円未満 ▨80万円以上）

